

【用語】弓張挑燈—竹を弓のように張り、その上下に掛けた提灯

【解説】高野長英（文化元〜嘉永三年）は江戸時代後期の蘭学者で、陸奥国胆沢郡水沢（岩手県水沢市）に生まれた。文政三年（一八二〇）から江戸でオランダ医学を学び、文政八年には長崎の鳴滝塾なるたきじゆくに入塾し、のち江戸で開業した。かたわら渡辺崋山しやうしかいらと尚齒会を組織して時局を研究し、天保九年（一八三八）には『夢物語』を著して幕府の対外政策を批判した。翌年、蛮社の獄に際して投獄され永牢となるが、弘化二年（一八四五）に脱獄して江戸市中や宇和島などに潜伏した。この間、吾妻郡にも潜入したと伝えられている。嘉永三年（一八五〇）江戸潜伏中に発見されて自刃した。

一方、高橋景作（寛政十一〜明治八年）は吾妻郡横尾村の医家で、長英の沢渡温泉来遊を機会に師事し、長英の家塾、江戸大観堂に入門した。在塾数年で塾頭となり、帰郷して開業した。万延元年（一八六〇）には牛痘接種を試みて成功し、以後、郡内の各地で接種を実施した。この書状は年次不詳であるが、景作が大観堂に在塾中の天保年間のもので推定される。病死した鈴木の家に今夕までいるので、もし急用や急病があった時は同家まで知らせること、また周助をよこす時には弓張提燈を持たせるようにと記している。この書状にみえる鈴木家については不明であり、今後の検討課題であろう。なお、高橋景作関係資料は中之条町指定の重要文化財である。